

■時代は進歩した、ゆえに、
宗教にも進歩は必要であろう

修正： 2022.09.01

投稿： 2022.09.01



●時代は進歩した、ゆえに、宗教にも進歩は必要であろう①

聖書もタブレットで読める時代になりました。

悪魔払いでは、聖書が掲げられたりしますが、
今の時代、聖書はタブレットに入っているのだから、
悪魔払いにおいても、聖書ではなく、
聖書の入ったタブレットを掲げれば済むはずで
バッテリー残量には注意しなければなりません。

「いやいや、タブレットじゃダメだろ！」

と言う人もいるかもしれませんが、では逆に、
聖書は良くて、聖書が入ったタブレットではダメ
な理由は何なのでしょう？

紙媒体の聖書も、電子部品で構成されたタブレットも、
どちらも同じ情報を含んでいるのですから、
本質的には同じであると言えます。言えないはずがありません。

聖なる文章が記された書籍が聖書なら、同様に、
聖なるデータが保存されたメモリもまた聖書です。

そもそも聖書とは、その内容を伝達するためのもので、
内容を理解し、活用することが大切です。したがって、
もし悪魔払いで聖書が効果的だと言うのであれば、それは、

悪魔が聖書の内容を理解しその内容に恐怖している、
ということを意味します。ゆえに、猛獣相手であれば、
どんなに聖書を掲げても怯えることはありません。
何が書かれてあるのか理解ができないからです。

よって、悪魔払いにおいて、聖書でもタブレットでも
どちらも同じ効果が得られるはず、です。…。

何はともあれ、時代は進歩しました。

宗教もそれに併せて進歩すべきでしょう。

※ここでは悪魔払いを取り上げましたが、
別にそれ自体に深い意味はありません。

(続)

//=====//

●時代は進歩した、ゆえに、宗教にも進歩は必要であろう②

仏教といえば、葬式や法事の際に僧侶がやってきて、

「かんじ〜ざいぼ〜さつぎょ〜う…」と

淡々とお経を唱える印象が強いですが、
お経を唱えたところで別に何も起こりはしません。

と言うのも、そもそもお経とは、聖書と同じで、
その内容を伝達するためのものです。ゆえに、
内容を理解し、活用することが大切です。

さかのぼること 2000 年も前、物資は少なく、
紙も貴重な時代でしたから、識字率も低く、
人々は口頭で思想を語り継いでいました。

お経にリズムがあるのもこうした背景が考えられます。
少しでも記憶の定着率を上げるために、
リズムを付けることは効果的なことなのです。
歌にするとなぜか記憶に残るでしょう？

で、そんなお経を葬式や法事で唱えるのは何のためか？

気分です。いやマジで。

誰もお経の内容なんて知らないものですから、
お経を唱えることを不思議にすら思わないのでしょうか、
意味が分からないものを聞いても意味がありません。

もしお経を唱えた僧侶が良心的な人であれば、少なくとも、
そこに何が書かれてありそれがどういう意味なのかを、
分かるように解説してくれます(それこそ僧侶！)。

しかし普通の僧侶は(少なくとも私が出会ってきた僧侶は)、
報酬を頂戴さえしてしまえば、とっとと退散していきます。
もはや、ただの読み上げ作業にすぎません。であれば、

それは音声読み上げソフトでもできることです。
ボーカロイドの初音ミクやボイスロイドの結月ゆかりの方が
上手いかもしれません。いやマジで。

そうしてお経を唱え終わった僧侶が最後に、
「え～、仏さんの魂を極楽浄土へ導きました(・ω・)」
などと軽々しく口にするものですから、

「お前にそんな力はね～だろうがあ！(;・`Д´)」
と言いたくなるのですが、

「お布施さえ受け取ってしまえば、
もうお前らに用はな～いっ！(° o°)」
とばかりに一目散に帰って行きました。…。

(続)

//=====//

●時代は進歩した、ゆえに、宗教にも進歩は必要であろう③

「閻魔帳(えんまちょう)」と呼ばれる

帳面があります。これは、死者が生前に行った

善悪のすべてが書き記された帳面のことです。

行いのすべてが書き記された、と聞けば、

その容量は無限大か？と思われるかもしれませんが、

いえいえ、そんなことはありません。

もし1時間を100ギガバイトで保存するとすれば、

せいぜい数ペタバイト、多く見積もっても

1エクサバイトあれば十分です。

とは言っても膨大な容量を誇る閻魔帳ですが、

これは何に利用されるものかと言うと、まず、

死者は死後に天国 or 地獄をジャッジされます。

この判定を行うのが閻魔様ですが、当然、

判定のためには基となるデータが必要です。

そのデータを閻魔帳から取得するわけです。

この例え話が作られたのは今から数千数百年前であり、

言うまでもなく、その時代にコンピュータはありません。

しかし当時の人は、そうした閻魔帳(データベース)なるものが

いつの日か実現し、クエリやAPIを利用して問い合わせすれば、

誰がいつ何の罪を犯したのか一瞬で検索できる日がくることを

予想しました。実際そうになっています。

日本では、警察庁が犯罪者データを管理しています。

一般人ではこのデータベースにアクセスはできませんが、

警察管であれば照会を要求し、犯罪歴を調査することができます。

昔はそんなシステムなどありませんでしたから、

人を殺しても捕まりもしなかったほどです。
今では、死ぬまで Google に自分の名前が載ります。
ある意味 Google が閻魔帳のようなものです。

「嘘をついたら閻魔様に舌を引っこ抜かれる」

と言うのも、検索すれば出てくるようになれば、
嘘の主張ができなくなることを例えたものです。
および、それによる信用の失墜で、会話が
成り立たなくなることも含まれているのでしょう。

(続)

//=====//

●時代は進歩した、ゆえに、宗教にも進歩は必要であろう④

普段、私たちは、声を使って会話します。逆に言えば、
声にしなければ相手には伝わらない、ということです。これは、
ありがたいことであると同時に、面倒なことでもあります。

今はまだ実装されていませんが、そのうち、
脳が「**電脳化**」されるときがくることでしょう。そうすると、
脳はインターネットに**常時接続**されるようになります。

すると、**脳が思考した瞬間に、自分の意思や感情は、**
瞬時に相手に伝達されるようになります。つまり、
思考するだけで会話が成立するようになります。このようにして、
コミュニケーションは極限まで効率化されていきます。

世界がこのように進歩したとき、重要になるのは、思考です。
もし相手を悪く思えば、その瞬間すべて伝わるわけですから、

心が汚ければ、とても、この世界では生きていけません。
(宗教風に言えば、このような世界を「天国」と言います)

もし自分が過去に罪を犯し、これがバレることで
誰かに報復されるような立場にあるのであれば、
電腦化は避け、物理世界でひっそりと
生きていかなければなりません。
(宗教風に言えば、このような世界を「地獄」と言います)

皆が便利な世界を謳歌している中で、
非効率な世界で生きていくことは苦痛でありましょう。
そうならないようにするためにも、常に、
心のバランスを保ち続けていかなければなりません。

イラっとすればそれは相手にも伝わり反感を買ってしまう、
相手を見下してもそれは相手に伝わり反感を買ってしまう、
思った瞬間、相手に伝わる世界では、隠し事はできません。

心から綺麗にしていかなければならないのです。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)